

神楽岡公園の植物

忠別川に隣接している低地域は、胸高直径が1m近くのドロノキや大正時代に植栽したエゾヤマザクラがたくさんあります。奥の方に一部湿地があり、ミズバショウ、ザゼンソウといった湿生植物が見られます。上部の高地域には、ミズナラ、カシワ、カツラ、ハルニレなどの高木層、ヤマグワ、ツリバナといった中木層、その下には、クマイザサ、フッキソウ、クルマバソウ、エゾクガイソウなどの自然植生がいまでも多く見られます。



ニリンソウ

キンボウゲ科。高さ15cm～25cmの多年草。明るい林内に生育し、群落を形成する。5月中旬頃から開花する。



エゾエンゴサク

ケシ科。高さ15cm～25cmの多年草。明るい林で見られ、4月下旬から5月上旬にかけて開花する。花の色には変化が多い。



ミズバショウ

サトイモ科。高さ40cm～80cmの多年草。5月に開花する。花序は棒状で、白い仏炎苞の中にある。湿地や水辺で見られる。



オオバナノエンレンソウ

ユリ科。高さ20cm～40cmの多年草。5月～6月にかけて開花し、明るい林内で見られる。

神楽岡公園の生き物

都市と自然とが美しく調和した神楽岡公園では、エゾリスなどの小動物に出会うことができ、また、四季を通して多くの小鳥達の鳴き声を聴くことができます。しかし、昔から子供達に馴染みのあった、アオダイショウ、エゾサンショウウオ、シオカラトンボといった生き物が見られなくなったのは、周辺の環境の変化によるものと思われます。旭川市の発展とともに歩んできた神楽岡公園は、自然度の高い総合公園として、多くの機能が集積した憩いのオアシスを創出しています。



キビタキ

ヒタキ科。スズメよりやや小さい夏鳥。落葉広葉樹林に生息し、林の空間を利用して昆虫を捕らえる。



アカゲラ

キツツキ科。ムクドリ大の留鳥。最も普通にみられるキツツキの仲間。雄は後頭部が赤く、雌は全体が黒色。



シジュウカラ

シジュウカラ科。スズメ位の大きさの留鳥。樹洞やキツツキの古巣に営巣する。巣箱も利用する身近な鳥の一つ。



ゴジュウカラ

ゴジュウカラ科。スズメ位の大きさの留鳥。幹に縦に止まったり、下を向いたまま幹を下ることができる。

Access Map

アクセスマップ

交通機関

旭川電気軌道
アサヒビル前乗車82・83番
上川神社下車徒歩約10分



平成22年4月発行

神楽岡公園 散策マップ

Kaguraoka Park Stroll Map

監修／旭川市土木部公園みどり課
企画・発行／財団法人旭川市公園緑地協会



緑が、水が、木漏れ日が
人にやさしい、癒しの空間を創ります。
四季折々に織りなす表情と一緒にご過ごせます。



北彩都あさひかわ



川の自然環境、四季の彩り、人との出会い
神楽岡公園は北彩都あさひかわに隣接する総合公園として
緑豊かな都市空間を形成しています。

昭和62年度から平成9年度までの11年間で、公園全体を「都市緑化植物園区域」、「自然生態観察公園区域」、「一般公園区域」の三つのゾーンに区分し、整備を図ってきました。

都市緑化植物園区域

緑のセンター(緑の相談所)での相談業務や講習会、見本園・温室等での展示を通じて花や緑に関する知識の普及に努めています。

自然生態観察公園区域

さまざまな植物や、そこに生息する野鳥、昆虫などの自然観察をしたり、森林浴や散策が十分に楽しめます。

一般公園区域

豊かな自然環境のなかで、スポーツ、花見、キャンプ、ピクニック、歩くスキー、隣接する忠別川での水遊び、魚釣りなど四季を通じて楽しめます。歩くスキーは、公園をほぼ一周する約3kmのコースを整備しています。



神楽岡公園の総面積は40.99haです。

散策路コース (約2.4km)
歩くスキーコース

神楽岡通線(プラタナス通り)

